

三国丘中学校

自転車プロジェクト

～三中が広める堺の魅力～

企画書（案）

6/3 ver.

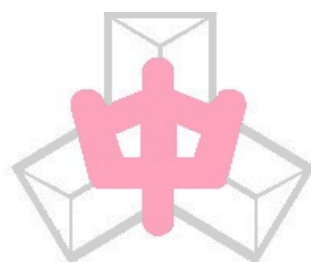


生徒会執行部

大津	龍二
今西	純司
山川	清陽
三崎	りこ

目次

1. 企画の背景.....	1
2. 企画の概要.....	3
3. 実現に向けての課題.....	4
4. 課題の解決を含む企画の詳細.....	5
5. 経緯と今後のスケジュール.....	8
6. 運営体制.....	13
7. 資料.....	14



1. 企画の背景

「三国丘中学校で自転車通学がしたい！」

本取組は、本校76期生の当時2年生であった山辻楓さんが、令和5年9月、校長室に行き、吉岡哲郎校長に「自転車通学がしたい！」と直談判したことから始まりました。その際吉岡校長は「これは難しい…」と感じ、山辻さんに、大人を納得させられる材料を用意するよう促し、帰しましたが、翌日彼女は事細かな資料を作成したうえで再び校長室にやってきたのです。すると吉岡校長も彼女の本気度を認め、乗り気となり、共に自転車通学に向けての考案を始めました。そして令和6年3月22日(金)の修了式後、山辻さんは体育館にて全校生徒と全職員の前でプレゼンし、結果として全校生徒の4分の3以上の信任を受け、これにより自転車プロジェクトが始動することが決まったのです。またその際、山辻さんだけでなく、生徒会執行部が主体となり、全校生徒の代表として企画の考案に携わることが決まりました。

令和6年度になり、3年生になった山辻さんに生徒会執行部の主担当職員である大津龍二教諭、また生徒会役員から自転車プロジェクト担当として77期2年生の山川清陽さんが加わり、3人で協力し、5月にはプロジェクトの素案を完成させました。

6月6日(木)には、自転車プロジェクトメンバー3人と吉岡校長を合わせた4人で堺東まで行き、自転車の活用により回遊性を高める「SCC(Sakai Communication Cycle (さかいコミュニケーションサイクル))」のメンバーの方々や長らく堺の自転車業界に携わってきた方、堺市役所(サイクルシティ推進部 自転車企画推進課)の方など計10名の皆さんに、素案をプレゼンさせていただきました。その際、さまざまな視点からご質問やご指摘をいただき、今後応援していただくことを約束していただきました。

当初、令和6年度中の自転車通学実施をめざして企画の考案をしてきたプロジェクトメンバーでしたが、6月10日(月)に行われた校内の企画委員会にて、6日(木)にあったプレゼンの報告と素案の内容、今後の予定などについて説明したところ、参加職員からは、取組の詳細がまだ練り切れていないことや、全職員への周知不足、自転車通学について考えることは了承したが本当に実施することについては了承していないなど、多くの反対意見が出ました。

プロジェクトメンバーと他の職員の意識の差が浮き彫りとなり、本取組は大幅な軌道修正をすることとなりました。またその際、1度全校生徒で通学するうえでの課題などについて考える場を設け、そのうえで詳細案を作成してはどうか、という意見が出ました。全校生徒の代表である生徒会執行部が主体となって企画を考案することは認められているものの、少人数での考案であり、内容が本当に全校生徒に沿ったものであるかという懸念もあったため、生徒会執行部から話し合い活動を改めて企画することを同意し、会議は終了しました。

本校の生徒会活動は前後期制であり、１０月からの後期活動では、生徒会役員から７７期２年生である三崎りこさんが新たにプロジェクトメンバーに加わりました。また、発案者である山辻さんは、高校進学に向けた受験勉強に集中するため、離脱が決まりました。

そして令和７年２月１７日(月)、各教室にて全校生徒を対象にした自転車通学に関する話し合い活動が行われました。班ごとに考えを交流したうえで、生徒の皆さんには用意したファイルに意見を入力してもらいました。また、Microsoftの「forms」機能を利用し、生徒１人ひとりの意見を集めることもできました。

令和７年度になり、プロジェクトメンバーに今西純司主幹教諭が加わりました。その後もメンバーで協力し、職員や生徒たちからの意見でよりよいものを抽出しながら、本企画書を作成いたしました。



2. 企画の概要

(1)目的

- ①自転車通学による通学時間の短縮や夏場の暑さ、冬場の寒さの軽減。
- ②自転車通学を通じた生徒の自転車利用に関するマナーの向上。
- ③部活動時などにおける校外での自転車利用に関するマナーの向上。
- ④三中生が安全な自転車通学を継続させることで、堺の魅力である自転車を安全面でPRする。

(2)対象生徒

- ①自宅から本校までの距離が1.2km(実距離)以上であることを証明できる生徒。
- ②生徒会執行部が実施する自転車安全講習を受講し、かつ生徒会執行部が作成した自転車に関する試験(筆記・実技)の受験を通じて、安全に自転車通学ができると認められた生徒。
- ③人数は10名以内とする。(令和9年度以降は、実態に応じて人数増加も考慮)

(3)実施時期(「7.」⑧大阪府が実施する交通安全に関する運動の期間は除外して実施)

第1回は令和8年1月(5日間程度)を予定。その後、課題の有無などを確認し、第2回は令和8年9月(10日間程度)、第3回は令和9年2月(10日間程度)を予定。令和9年度以降の実施については、生徒の通学状況や交通意識などを考慮し、段階的に回数を増やすことも検討する。

(4)自転車の通学路

本校が認める徒歩での通学路のうち、生徒会執行部が点検・確認し、定めた通路にて通学する。

(5)企画のゴール(最終目標)

生徒会執行部が実施する取組として、10日間程度かつ10名以内で年間2回程度実施される自転車プロジェクトが、校区に住む方々や他の地域の人々に認知され、三国丘中学校の1つの文化として継承されていくこと。

3. 実現に向けての課題

令和7年2月に実施した職員向けアンケートより、職員が以下の事項を課題または懸念点として考えていることがわかった。(計31名回答。「7.」に一覧参照。)

- ・ 職員の負担増加への懸念
- ・ 事故の危険性
- ・ 事故発生時の対応
- ・ 自転車通学者の管理への不安
- ・ 駐輪場の整備および管理
- ・ 取組における規定
- ・ 違反生徒への指導
- ・ 生徒の交通意識の低さ
- ・ 生徒の安全確保

これらの課題の解決が期待できる内容を含めた企画の詳細を、次項「4.」で記すこととする。